

第3章 調査成果

第1節 遺跡の概要(第6・7図、PL.1～3)

殿河内ウルミ谷遺跡では、検出作業の結果、旧石器時代から中・近世にかけての遺構や遺物を確認した。

旧石器時代では、A区中央やや北寄りのG4・F4グリッドにおいて、ソフトローム二次堆積土下の黒褐色土層とホーキ層の二次堆積土と考えられる灰黄褐色土中から、周辺加工尖頭器などの石器及び小石刃石核など118点の石器・剥片等が出土した。

弥生時代では、C区において段状遺構2基(SS3・SS17)を検出した。SS3は出土土器から弥生時代後期中葉、SS17は弥生時代中期中葉ごろと考えられる。

飛鳥時代から古代では、斜面部で多数の遺構、遺物を検出した。検出した遺構は、飛鳥時代では段状遺構11基(SS5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・16)、奈良時代では段状遺構2基(SS1・2)、土坑2基(SK8・15)、溝1基(SX2)、古代末から中世では、10世紀末から12世紀中ごろと考えられる段状遺構2基(SS4・15)、製炭土坑3基(SK1・2・11)を検出した。飛鳥時代の遺構は主に西側斜面部(C区)に、奈良時代以降の遺構は主に東側斜面部(A区)にみられることが特徴である。

中世では、中世段階で埋没したと考えられる自然河川の痕跡(NR1)を検出した。

近世以降では、炭窯SK7、製炭土坑SK6を検出した。伴う遺物は出土していないが、放射性炭素年代測定の結果、SK7は19世紀以降、SK6は17世紀以降のものと考えられる。

時期不明の遺構としては、土坑がA区では5基(SK3・4・5・13・14)、B区では1基(SK9)、C区では2基(SK10・12)検出した。また、C区では道と考えられる遺構を2基(SX1・3)検出した。SK13・14は製炭土坑で、SK3・4・5・9・10は性格不明の土坑である。

その他、古墳時代終末期を中心に平安時代ごろまでの須恵器を中心とした遺物が、谷部(B区)に堆積する圃場整備時の造成土中から多数出土した。この中には、溶着・変形したものや窯壁片が含まれており、須恵器窯に関連する遺物と考えられる。調査地内では、須恵器窯は検出されておらず、調査地内にあった須恵器窯や灰原等が圃場整備に伴う工事で破壊された可能性もある他、調査地外にあたる北西側の斜面上方に窯体自体が遺存している可能性もある。

第2節 遺跡の立地と基本層序

1 遺跡の立地

殿河内ウルミ谷遺跡は、大山北麓から派生する丘陵に挟まれた、ウルミ谷川によって形成された狭小な谷部と、東西の急峻な斜面部に展開する。遺跡周辺の標高は約34～65mである。起伏に富んだ地形で、東側斜面部をA区、谷部をB区、西側斜面部をC区とした。

2 基本層序(第8・9図)

A区は、調査前は主に山林となっていた。基盤層は、丘陵部分はソフトローム二次堆積土と考えら

第3章 調査成果

れる黄褐色土であるが、河川側は一部御来屋礫層が露出する箇所がある。ソフトローム二次堆積土以下は、旧石器が出土した黒褐色土層やホーキ層二次堆積土である灰黄褐色土となる。以下は無遺物の純粋なホーキ層、ホーキ層とソフトロームが混濁する黄褐色土が互層状に堆積しており、一帯が大山上部火山灰層の二次堆積層となっていると考えられる。

なお、NR1の堆積状況を見ると、河川堆積層と考えられる黄褐色砂礫層上にシルト質層が堆積しており、中世以降陸地化していたものと考えられる。この層については、人為的な堆積層の可能性も考えて、土壌理化学分析を行ったが、明瞭に人為的な堆積層とは考えられなかった。しかし、含まれるプラント・オパール、花粉分析の結果、イネ属やソバ属が断続的に検出されており、中世以降遺跡周辺でイネやソバが栽培されていた可能性が指摘された。

B区は、調査前が水田となっていたが、昭和56～61年にかけて大規模な圃場整備が行われた際に、本来の地形が大きく損なわれていることが判明した。特に、B区北西側は本来丘陵裾部が張り出していた部分が基盤礫層まで掘削を受けて平坦になっているとともに、所々に重機掘削と考えられる箇所や圃場整備時に設置されたと考えられる暗渠施設があり、遺構の遺存状態は悪い。上流側においても、一帯は遺物を含まない河川堆積の礫層となっており、圃場整備時に重機による掘削や用水路の設置が行われ、水田として利用されていた。

礫層の堆積時期は明確ではないが、最終段階では中世ごろと考えられ、その後湿地状に変化していたものと考えられ、黒褐色粘質シルト層が厚く堆積し、圃場整備前まで水田として利用されていたものと考えられる。その後は、圃場整備によって掘削・造成が行われていた。

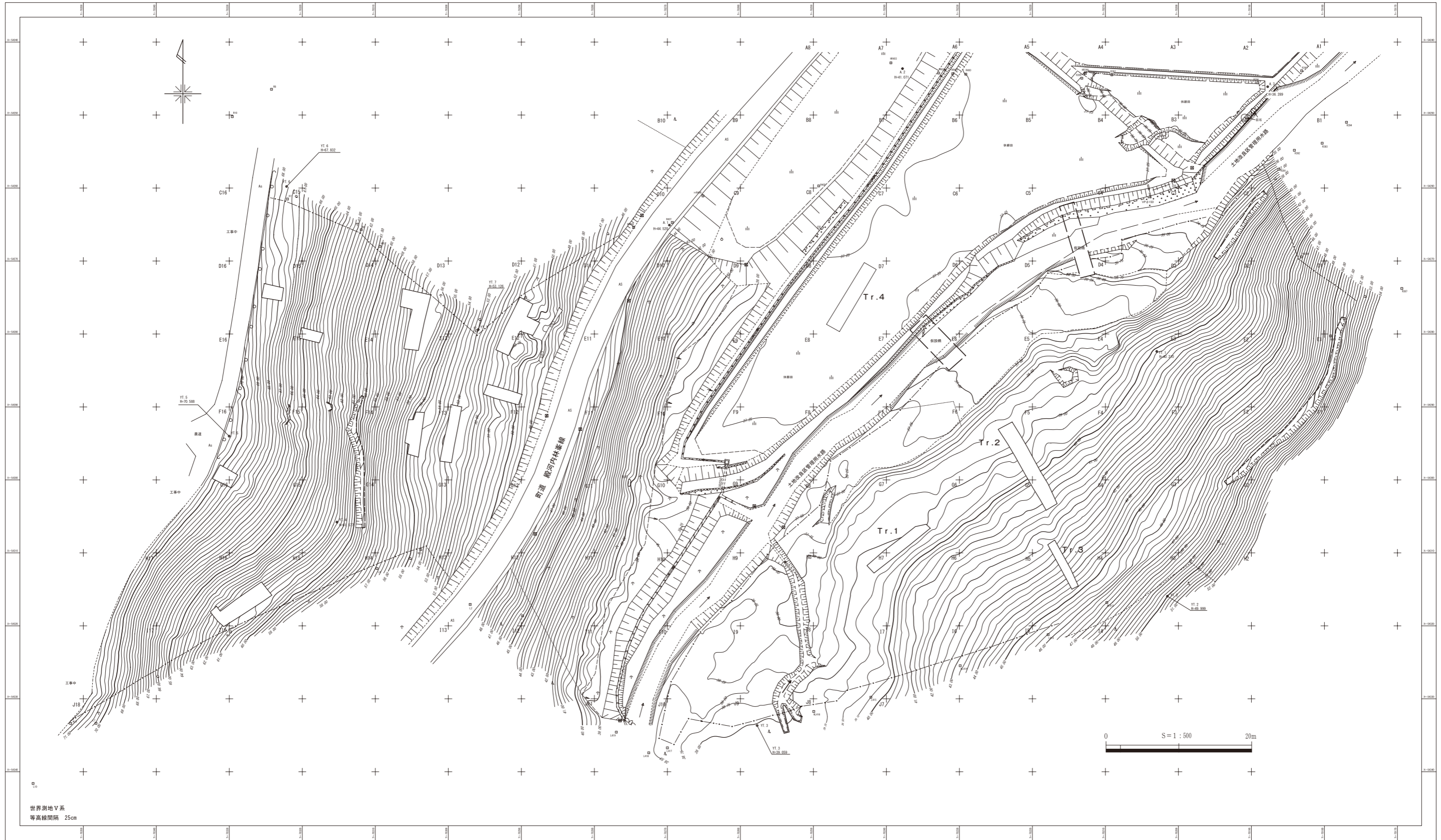
C区は、ソフトローム二次堆積層が基盤となり、多くの遺構はこの層で検出した。斜面上部では、この層以下で無遺物の黒褐色土が堆積していた。また、SS8では底面が御来屋礫層まで掘削が及んでおり、山体の基盤層は御来屋礫層と考えられる。斜面下部は谷堆積層となり、ソフトローム層が暗褐色に変質したと考えられる層(24層)が基盤となる。



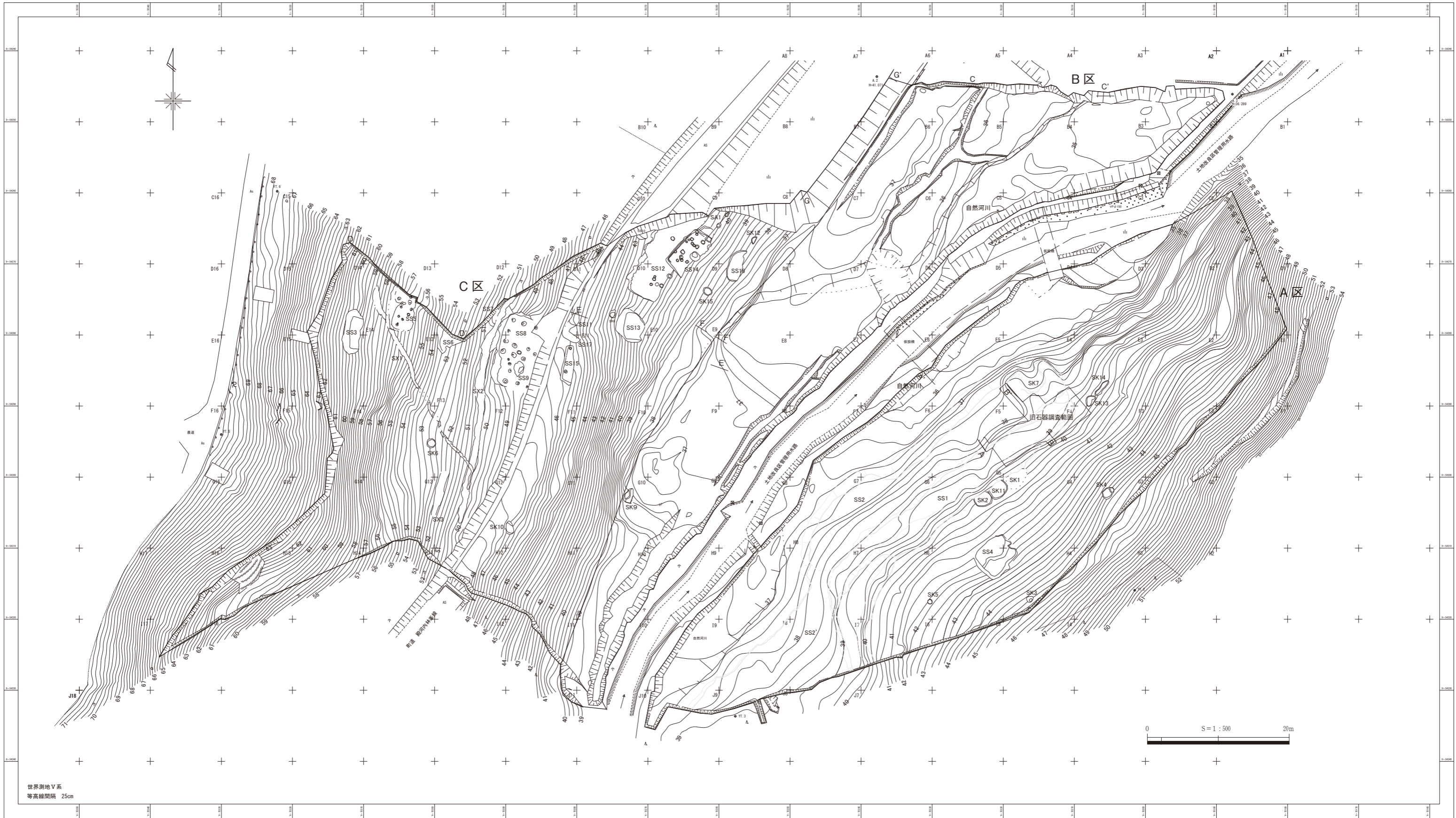
文中写真5 B区重機表土剥ぎ風景



文中写真6 B区暗渠石材除去作業風景

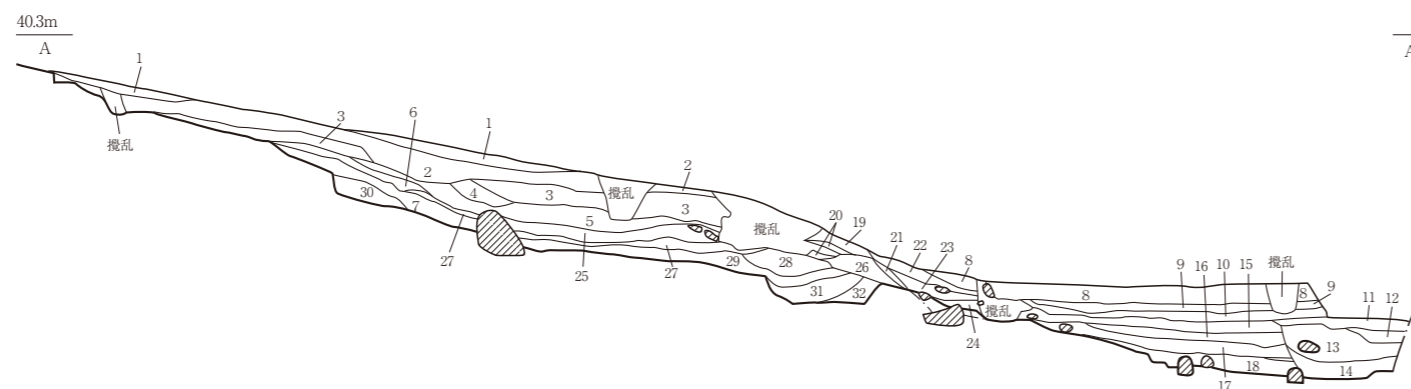


第6図 調査前地形測量図



第7図 調査後地形測量図・遺構配置図

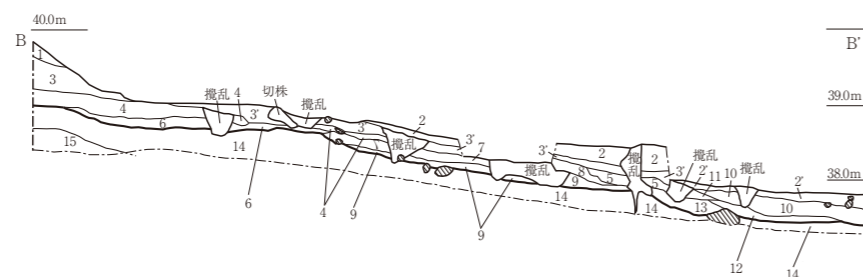
A区中央土層断面



A区中央土層断面

- | | |
|--|--|
| 1 黒褐色土 (10YR2/2) 表土。 | 17 灰色シルト (5Y4/1) φ5～20mmの礫含む。 |
| 2 褐色土 (10YR4/4) 流土。φ1～10mmの礫混。 | 18 オリーブ黒色シルト (5Y3/1) φ5～20cmの円礫含む。 |
| 3 褐色土 (10YR4/3) SS2 盛土。地山ブロックと旧表土ブロック痕。 | 19 におい黄褐色土 (10YR4/3) |
| 4 黒褐色土 (10YR3/2) 旧表土。φ1～10mmの礫混。 | 20 暗褐色土 (10YR3/3) 地山ブロック含む。 |
| 5 黒褐色土 (10YR3/2) 旧表土。φ1～10mmの礫わずかに含む。 | 21 におい黄褐色土 (10YR4/3) φ2～3cmの礫含む。 |
| 6 褐色土 (10YR4/4) 7層の二次堆積か。 | 22 灰黄褐色土 (10YR4/3) |
| 7 褐色土 (10YR4/5) 6層より明るい。固くしまる。 | 23 黒褐色シルト (10YR3/2) |
| 8 褐色土 (10YR3/3) | 24 におい黄褐色砂質シルト (10YR5/2) φ2～3cmの礫含む。 |
| 9 におい黄褐色土 (10YR4/3) | 25 黒褐色シルト (10YR3/1) φ5mm大の粗砂、2～5cmの礫含む。 |
| 10 黄灰色砂質シルト (25YR4/1) φ1～5mmの粗砂含む。 | 26 におい黄褐色砂質シルト (10YR4/3) φ1～5cmの礫含む。固くしまる。 |
| 11 黒褐色砂質シルト (25YR3/1) | 27 におい黄褐色砂質土 (10YR5/3) 礫多く含む。 |
| 12 黒褐色砂質シルト (25YR3/2) | 28 灰黄色砂土 (25Y6/2) ホーキ層。 |
| 13 暗灰黄色粗砂 (25YR4/2) φ1～20cmの円礫、垂円礫多量に含む。 | 29 におい黄褐色シルト質壤土 (10YR6/4) ホーキ層。砂礫多く含む。 |
| 14 暗灰黄色粗砂 (7.5YR4/2) | 30 灰黄色砂土 (25Y6/2) ホーキ層。 |
| 15 暗灰黄色砂質シルト (25YR4/2) φ5mm大の炭化物わずかに含む。 | 31 灰黄褐色砂土 (10YR4/2) |
| 16 黄灰色シルト (25YR4/1) φ5～10mmの礫含む。 | 32 灰黄褐色砂土 (10YR4/2) 砂礫多く含む。 |

A区旧石器トレンチ土層断面

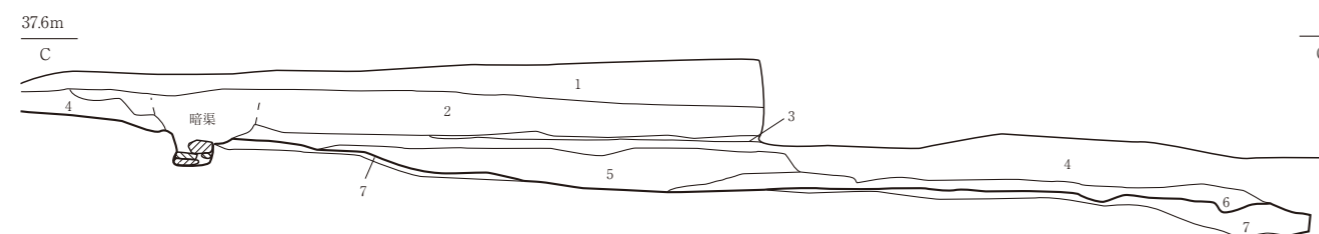


A区旧石器トレンチ土層断面

- 1 黄褐色土 (10YR5/6) しまり・粘性ともに強。φ5mm程度のホーキブロックを少量含む。ローム再堆積土
- 2 におい黄褐色土 (10YR4/3) しまり・粘性ともに強。φ2～3mm程度の砂礫・地山ローム粒を多く含む。ホーキブロックを少量含む。ローム再堆積土
- 2' 2層と同質で、同一層の可能性あり。
- 3 黒褐色土 (10YR2/3) しまり強、粘性やや弱。φ1mm～3cm程度の地山ローム・ホーキブロックを含む。遺物包含
- 3' 3層とほぼ同質で、同一層の可能性はあるが、粘性強。遺物包含
- 4 灰黄褐色土 (10YR5/2) しまり・粘性ともに強。φ2mm～1cm程度のホーキ粒・ブロックを多く含む。旧石器包含
- 5 褐色土 (10YR4/4) しまり強、粘性やや強。φ1mm～2cm程度の砂礫・地山ロームブロックを多く含む
- 6 におい黄褐色土 (10YR6/4) しまり・粘性ともに強。φ1mm～5cm程度の砂礫・ホーキブロックをやや密に含む。基盤層 (上のホーキ層) と黄褐色土 (ソフトロームか) の混濁土

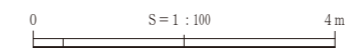
- 7 におい黄褐色土 (10YR7/4) しまり・粘性ともに強。ホーキブロックをやや密に含む。6層とほぼ同質。
- 8 黄褐色土 (10YR5/6) しまり・粘性ともに強。φ1～2mm程度の砂礫をやや密に含む。
- 9 黄褐色土 (10YR5/6) しまり・粘性ともに強。φ1mm～1cm程度の砂礫・ホーキブロックを密に含む
- 10 黒褐色土 (10YR2/3) しまり強、粘性やや強。φ1mm～1cm程度の砂礫・ホーキブロックをやや密に含む。3層および3'層と同一層の可能性あり
- 11 褐色土 (10YR4/4) しまり・粘性ともに強。φ1mm～1cm程度の砂礫・ホーキブロックを密に含む
- 12 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり・粘性ともに強。φ1mm～2cm程度の砂礫・ホーキブロックを密に含む
- 13 黄褐色土 (10YR5/6) しまり強、粘性やや強。ホーキブロックを多く含む。基盤層 (上のホーキ層) とソフトローム土の混濁土。6層と近い土質
- 14 灰黄褐色砂質土 (10YR6/2) しまり強、粘性なし。基盤層 (上のホーキ層)
- 15 におい黄褐色砂質土 (10YR7/2) しまり強、粘性なし。基盤層 (オドリ層か)

B区北側土層断面

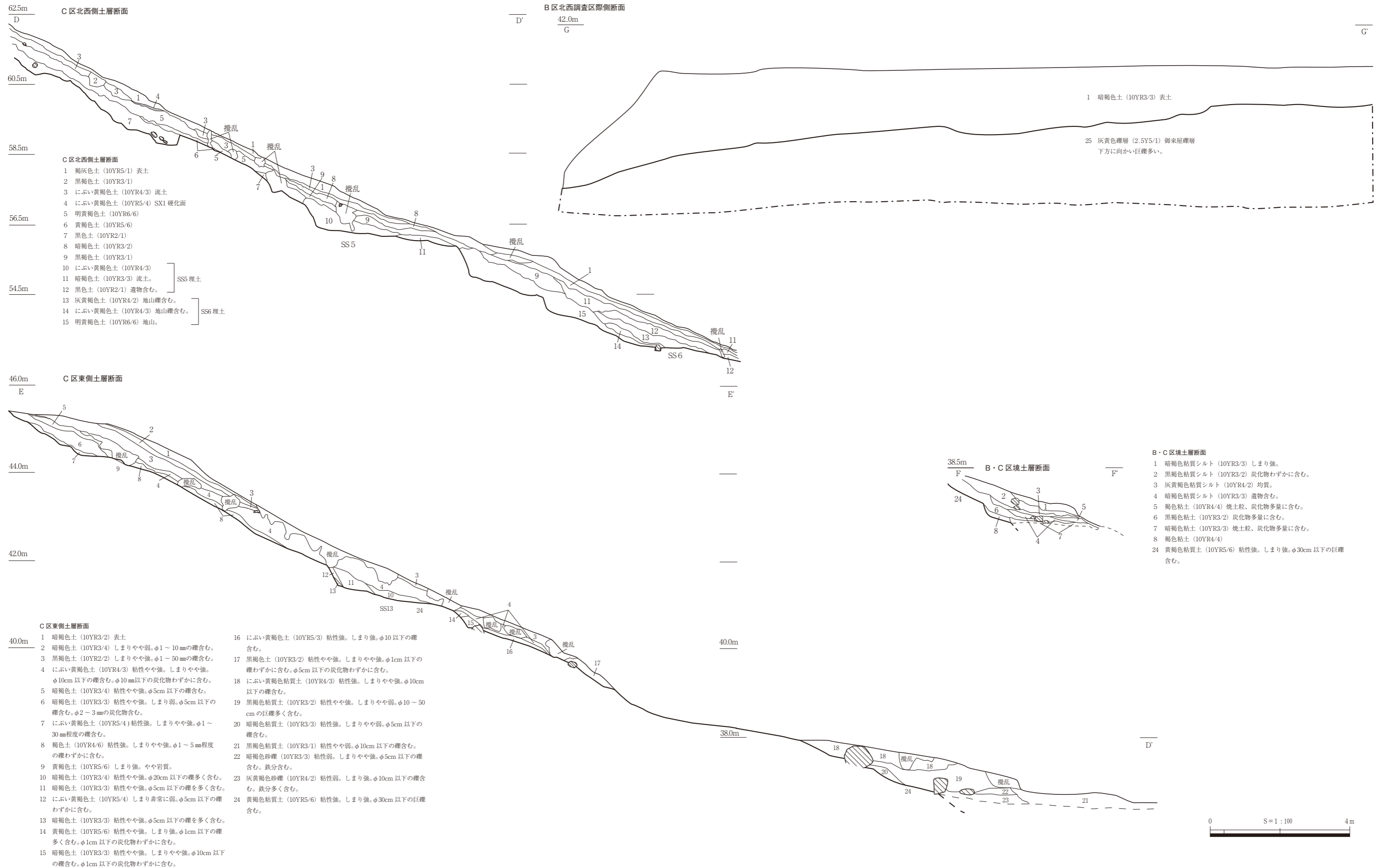


B区北側土層断面

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 耕作土
- 2 褐灰色土 (10YR5/1) 暗褐色土混。造成土
- 3 黒褐色土 (10YR3/2)
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) 造成前耕作土。
- 5 黒褐色粘質シルト (10YR2/2) 砂礫少量含む。
- 6 黒褐色粘質シルト (10YR3/1)
- 7 灰黄褐色粘質土 (10YR5/2) 地山。ソフトローム相当か。



第8図 基本層序(1)



第9図 基本層序(2)

